

私の一冊

こども学科 朴 淳香 先生

鷺田清一 著 『ちぐはぐな^{からだ}身体 ファッションって何?』

小鹿図書館 383/W42

みなさんは鷺田清一さんをご存知でしょうか。『折々のことば』（朝日新聞）の執筆者と言え、^{「あのコラムを書いている人か・・・」}と思ひ浮かぶ学生の方もいるでしょう。鷺田さんは臨床哲学・倫理学を専攻とする学者ですが、現象学・身体論をととても分かりやすい言葉で論じています。鷺田さんの身体論では、「身体」を「からだ」と読み、「身体」は自分がどのように経験するかという視点から、「身体」は、「像（イメージ）」でしかありえないと一貫して述べられています。ファッションを論じることの多い鷺田さんは、ファッションを論じていながら、「像（イメージ）」でしかない「身体」を、具体であるファッションに包まれた「身体」を相対的に意識してクリアに捉えられる「身体」に導いてくれています。

私は大学で子どもの身体発達に関係する領域を教えている関係で、「身体」について書かれている様々な本をめぐってみては、自分というものを形成する「身体」はどのように意識され、育ちの過程で自分のものとなっているのかということの答えを探しています。そのような中で、鷺田さんの著述を読み進めると、私たちはどのように自分の身体と日々つきあっているのかということについて、多くのことを考えることができるし、私たちはどのように身体意識を形成しているのかという手がかりを得ることができます。

医療・福祉・教育について学んでいる県短の学生の皆さんは、自分の「身体」を通して他者の「身体」にかかわる仕事に就く人も多いことでしょう。人間の歴史の中でも、日常生活においては身体を動かす必要が少なくなっている今の時代、自分の「身体」は遠い存在になっているのかもしれませんが、鷺田さんの著述から「身体」を自分に近い存在に近づけてみることはできないのではないかと思います。